

ウォーキングクラブ 9月定例会【愛知池周回、愛知牧場に寄り道】

実施日：2023.09.21



戦災復興期を境に着工した愛知用水は高度成長の礎となった



66年間の経年劣化を彩色塗装をして可愛い観音様に変身させたいな

彼岸に入っても秋雨前線が停滞してすっきりした青空は、未だ望めない今日この頃です。鶴舞線八事駅の1番線ホームに男性5名、女性4名が9時5分に集合しました。

天気予報では、早朝は小雨のち曇り、午後からは小雨との事、天気のせいで参加者が少ないのでしょうか。チョット寂しいが、気を取り直して9:13豊田行きに乗車して9:23に米野木駅で下車。

カミさんの次に大切な敬老パスmanacaを自動改札口にタッチして駅前に出れば、目の前には高層マンションが林立し目を奪われます。

米野木駅南の交差点を横切り、愛知池堰堤の土手を下れば目の前には広大な漕艇場が望めます。漕艇場は直線距離1000mで7レーンの規模です。護岸を兼ねた階段状の観客席のバックヤードの漕艇庫の脇には中日本のレガッタ協会を発足させた鎧塚一氏の銅像がありました。像は愛知池を前にして、右手を挙げて前方上方を指さす威風堂々とした立派な銅像です。後ろから「上半身に比べ短足の勇姿は幾らか貧弱な感じじゃない。プロポーションが変ヨ！」小生も少し違和感を感じました。この様な顕彰像は幾らか後世の身内の事を配慮して作成しなかったのかな？

漕艇場を後にして、軽い藪漕ぎ状態の愛知用水竣工碑に立ち寄り碑の前で集合写真を撮影しました。碑背面の石盤には愛知用水公団は昭和30年に発足し、32年から着工、35年完工との事が記されていました。また、堰堤広場の愛知用水案内板によれば、アースダムの堰堤は直線距離975m、堰堤高さ31m、貯水容量900万m³でドーム球場75杯分の大きな貯水池だそうです。

木曽川水系の源流の牧野ダム・味噌川ダム・阿木川ダムで貯水し、八百津町の鎌山取水口からの水は愛知用水路を流れて愛知池至るとの事が地図と説明文で理解できました。愛知池から放流された水は南知多町まで112kmにも及び農業用水の他、工業用水・飲料水に使用されているそうです。

東南方向に向かう一直線の土堰堤のアス舗装2車線の管理道路は先週の下見では陽射しが強く遮る日陰は無く猛暑の中辛い思いをしましたが、幸い今日は厚い雲に覆われて風もあり幾分涼しく感じます。管理事務所を右に見て、北に折れてやがて、堰堤を過ぎれば自然植生地の樹林トンネルに入り、風も幾分涼しく感じます。

仏師高見彰七作成の高さ10m程のコンクリート観音像に立ち寄りました。緩い石段を10m程登れば、観音像は宗教色が無く幾分味気ない雰囲気でしたが、「ふっくらした頬と腫れぼったい目は優しく庶民的で良い感じ」との声がありました。柵に取り付けられたビニール袋の説明によれば、像は昭和35年に愛知用水が建設し管理下にあり、現在は恵日山清峯院観音寺が運営されている様です。

東郷町運動公園でトイレ小休止です。ここは野球場と陸上競技場が併設されており、愛知池周回コースで唯一ベンチが設置されていました。ここでレモン味の飴を頂き元気が回復したところで「ヨッコラッシュヨット」重い腰を上げてウォーキング再開です。

矢作川取水口を過ぎた栗の木のある広場で地元の方から栗拾いの話を聞き、3本の大きな栗の木は実が大きく店に出しても見劣りしない大きさで艶のある栗を見せていただきました。



運動公園の小休止でおしゃべりのストレス解消



鎧塚一氏は右手を挙げて何を指しているのかな？

小生も栗拾いの誘惑に取りつかれましたが、団体行動を考え断念。路傍には百日紅の赤い花や、萩の花が咲き乱れていました。フェンス外の土手には今年初めて彼岸花も見掛けました。

名鉄豊田線の橋梁を潜り抜けてカーデンのスタジオホールの玄関を右に見て駐車場を横切り、交通量の多い県道を注意して横断し、芝生広場を通り抜けて東名高速道路のトンネルに至り愛知牧場に到着。トンネル壁面の歓迎イラストを眺めながらトンネルを通り抜け、モーハウスや、レストランを右手に見て、牛舎や、山羊や兎などの小動物園を通り抜けて、小高い丘に向かいます。なだらかな丘陵には向日葵のお花畑や、丸いコキアの紅葉、広い牧草地等広大な風景を眺める事ができました。下見では、背の高いお盆の様な向日葵の花はうつむいて首を垂れていましたが、今日は背の低い小型の向日葵の花が満開でした。「ソフィアローレンの映画を思い出すー！悲しくてやりきれなくて眼がウルウルになったの」後ろからその様な声が聞こえました。「あれはウクライナが戦場で、また再度上映されているのよ！」「女性は何時までもラブストーリーとお涙だ頂戴がお好き！」。

小生はバルブの頃、某銀行がゴッホの向日葵を6億で購入した事を思い出しました。

やがて南山(みなみやま)山頂に至れば、大きなステンレス製の十字架が鎮座した荘厳な祈りの空間がありました。全方位を眺めれば、猿投山をはじめとして雲に覆われた遠い緩やかな丘陵を見ることができました。また、足元には愛知池と東名高速道路や名鉄豊田線の赤い電車を俯瞰し、ジオラマを彷彿させます。

ランチタイムはレストランでカレーうどんを頂き、ジェラートの店ではクリームフロートアイスコーヒーを美味しく頂き大きなお腹を抱えながら、もっとウォーキングをしたい衝動が湧き気分が充実してきました。皆さんに囚ったところ、男性3名が愛知池一周コースに挑戦し、他の方は愛知牧場出入口で黒笹駅グループと分かれる事になりました。後ろから「ゴロゴロ雷の音が聞こえるヨ！大丈夫かな？」との声。「雷くらいで止めるようなヤワとは違うヨ、意地と度胸の男伊達！」

北の空には黒い雲が垂れ込めていて、雨の予感がしていましたが、三羽鳥は意気揚々と一周コースを目指しました。ところで、東郷町の南側コースは対岸に中電とデンソーの研究所の白い大きなビルが目に入り都市公園の雰囲気でしたが、北側コースは人に合うことも無く、湖畔の道は深い森に囲まれ、水面は鉛色のうねりの様な波で水鳥も見えず、寂寥な深山幽谷を思わせます。

黒い雷雲に背を押され、急ぎ足で入江や岬の道を肩で風を切ってウォーキングすれば、やがて雨にも合わず、スタート地点の米野木駅に到着。14:07の岩倉行きに乗車して、本願寺町の我が家に15時に帰宅。

因みにスマホの歩数計によれば、
19,500歩・
歩行距離13.9km・平均速度
4.4kmでした。

(撮影:北川健一・文:宮田いわを)



ウクライナの大地に平和が戻りますように神のご加護をアメン

